高等学校第１学年　総合的な学習の時間　学習指導案

期　日　平成 27 年 12 月３日(木) 第６校時
場　所　熊本県立鹿本高等学校　１年１～７組教室
指導者　１年学年団

１　単元名

「成功へのエチュード～バーチャル市役所プラン～」

２　単元について

(1) 単元観

総合的な学習の時間は５単元構成になっており、１学年では第１単元「Apple Program」と第２単元「成功へのエチュード～バーチャル市役所プラン～」を実施する。第１単元で探究的な活動のプロセスを体験し、第２単元から本格的な課題発見、課題解決に向かう。

この第２単元では１学年の生徒がクラスをこえて希望する７課に分かれて取り組み、学年全体としての発表会を行い、「山鹿市行政改革市民提案制度」に則って自分達で考えたプランを山鹿市に提案する。バーチャル市役所の各課の課員として、自らが設定した課題に協同して取り組んだ結果を共有することや山鹿市に企画を提案をすることで、社会における役割、将来の姿を意識し、自らの生き方在り方を考える。

(2) 系統観

【１学年】	⇨	【２学年】	⇨	【３学年】
「Apple Program」 「成功へのエチュード ～バーチャル 市役所プラン～」		「知の方法論 ～ディベート～」 「Young Doctor Plan」		「未来への架け橋」

(3) 生徒観

１年生２４０人（男子１５９人、女子８１人）で、普通科に２０２人、普通科体育コースに３８人が在籍しており、４年制大学を希望している生徒が大半を占める。素直で真面目な生徒が多いが、まだ稚拙さを残している部分もある。

アンケートの結果では、自分の生活や社会から課題を探す姿勢や問いを立てたり、わかりやすく発表することは苦手としている生徒が多いが、協働・協調的な学びへの取組意識については概ね高い数値を示している。物事に前向きに取り組む姿勢がみられるなどの積極性があり、今後の成長が楽しみである。

(4) 指導観

導入の段階で、山鹿市長からの講話を受け、先輩たちが取り組んだ同単元の全体発表の動画を見る等して、単元におけるミッションとゴールをイメージできるように工夫する。

探究的な活動の「課題の設定」に当たる部分では、ウェビングマップ等を用いて思考を拡散させると同時に、安全安心な学習の場を形成し生徒達が協同する基盤をつくる。その後、スムーズに「情報の収集」につながるようロジックツリーを用いて焦点化を図る。「整理・分析」の初期の段階で自分達の取組に対し、外部講師からの専門的な意見をもらい、必要に応じ「情報の収集」に戻り、今後の「整理・分析」に反映させる。最終的に、「まとめ・表現」として学年での全体発表会を実施する。

生徒達が協同して取り組んだウェビングマップ等やワークシートを随時振り返らせることで、主体的に活動することや、持続可能な社会に向けての意識を向上させていく。

【視点１】学びを引き出す 豊かなかかわり合いのある 言語活動	【視点２】学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り	【視点３】学びを支える 一人学びのＵＤ化と 効果的なＩＣＴの活用

【視点１】	【視点２】	【視点３】
探究的な学習の「課題の設定」で、「自分ごと」として、また、挑戦的な課題設定が設定できるよう、思考ツールを用いてアイデアを出し合う場面を設定する。	探究的な学習の「情報の収集」「整理・分析」で、思考過程や情報の可視化、操作化ができるよう、内容やタイミングに応じた思考ツールを提示し、生徒が選択できるようにする。	班で役割を分担する際、明確な役割分担ができるようにする。また、学びを支える要素の一つとして、教師が事前に思考ツールを用いて協働する場面を設定する。

◇インクルーシブ教育の視点から

【基礎的環境整備】

・単元におけるミッションとゴールをイメージできるように、先輩たちが取り組んだ同単元の全体発表の動画を見せる等の工夫をする。

・探究的な学習の「課題の設定」の過程では、ウェビングマップ等を用いて思考を拡散させると同時に安全安心な学習の場を形成し生徒達が協同する基盤をつくる。一人一人が学習に見通しが持てるように学習過程を提示する。

・探究的な学習の「情報の収集」の過程では、役割分担をする際、「誰が」「いつまでに」「何を」「どんな方法で」と項目を明確にする。

【合理的配慮】

（省略）

3　単元の目標と評価規準

単元の目標	山鹿市の現状を知り、興味・関心のある課で自ら設定した課題に対して探究的な活動をとおして取り組む中で、地域への理解を深めながら自らの在り方を考える態度を育てる。また、協働しながら課題解決に向かう際、思考ツールを使う等、必要な手法や学び方を身につけたり、集団の中で個人が果たす役割に気づかせる。
主体性・創造性	①課題解決に向けて、自らの取組について考えることができる。 ②自ら設定した課題解決に向けて、オリジナルの企画を提案することができる。
学び方・考え方	能動的に活動し、自他の意見を交流させ、考えを深めることができる。
問題解決能力	思考ツール等、必要に応じた手法を用いて、協同しながら問題解決に向かうことができる。

4　指導・評価の計画（１９時間　本時＜整理・分析②＞１１／１９）

時間	学習活動	指導上の留意点 **【３つの視点から】**	**評価の観点** **（評価方法）**
1	＜オリエンテーション＞ ・山鹿市長による講話 ・過去の全体発表会の視聴 【帯】	・単元の最終的な姿をイメージし、これからの取組に見通しを持たせる。	**主体性・創造性①** **（ワークシートへの記述）**
1	＜課題の設定①＞ ・各課のミッションの発表 ・ＢＳ、ＫＪ法的手法による班編制 ・各班のキーワードの確認 【帯】	・前単元で体験したＢＳ、ＫＪ法的手法を使いながら、主体的な取組を促す。 **【視点１】自分ごととしての課題設定。**	**主体性・創造性①** **（ＢＳ・ＫＪ法的手法を用いた協議）**

1	＜課題の設定②＞ ・各班のキーワードをセンターワードとした思考の拡散 ・取組内容の焦点化 【帯】	・協働の基盤として、ウェビングマップを使いながら傾聴し肯定することで、安全安心な学習の場を形成させる。 **【視点１】豊かな関わり合いと挑戦的な課題の設定** **【視点３】安心安全な学習の場**	**学び方・考え方** **（ウェビングマップのシート）**
1	＜課題の設定③＞ ・取組内容の細分化と分担 ・課内の情報共有 【帯】	・ロジックツリーを用いて、次時からの情報収集がスムーズに進むよう、取組に責任を持たせる。 ・情報共有することで、全員がアウトプットできる環境を作る。 **【視点１】豊かな関わり合い** **【視点３】明確な役割分担**	**問題解決能力** **（ロジックツリーのシート）**
3	＜情報の収集①～③＞ ・課題に対する情報収集 【単】	・各自が責任を持って必要な情報が収集できるよう、必要に応じて前時の取組の振り返りをさせる。	**問題解決能力** **（データの扱い）**
1	＜整理・分析①＞ ・情報収集のまとめ ・各班における企画原案作成 【帯】	・現状や課題から、企画原案により期待される効果までの流れを踏まえさせる。	**学び方・考え方** **（企画原案）**
2	＜まとめ・表現①②＞ 兼＜情報の収集④⑤＞ 「アクセルタイム」 ・外部講師へのプレゼン ・外部講師からのアドバイス 【帯】	・専門家である外部講師に具体的な質問ができるよう、積極的な姿勢を促す。	**主体性・創造性②** **（プレゼンテーション）**
2	＜整理・分析②③＞ ・アクセルタイムでのアドバイスの整理 ・企画原案の再検討 本時　整理・分析② 【帯】	・整理・分析するために適切な手法を選択させる。 ・主体的・協働な取組ができるよう、支援する。 **【視点２】内容に応じた思考ツールの選択**	**問題解決能力** **（思考ツールの選択・協議）** **学び方・考え方** **（情報共有）**
4	＜整理・分析④～⑦＞ 兼＜まとめ・表現③～⑥＞ ・企画原案のまとめ ・発表準備 【単】	・必要に応じて、これまでの学習の過程を振り返らせる。 ・データや写真・図表などを効果的に活用するようアドバイスする。 **【視点２】思考過程の整理**	**学び方・考え方** **（企画原案・プレゼンテーションデータ）**

1	＜まとめ・表現⑦＞ ・課内発表会 【帯】	・評価のルールと基準を確認する。	**主体性・創造性②（ワークシート）**
2	＜まとめ・表現⑧⑨＞ ・全体発表会、相互評価 ・単元の振り返り 【帯】	・相互評価の視点を示す。 ・学習の過程を振り返らせ、自らの成長に気づかせる。	**主体性・創造性②（プレゼンテーション・ワークシート）**

5　本時の学習

(1) 目標

・企画原案とアクセルタイムでのアドバイスを整理する際、適切な手法が選択できるようになる。

・協議を行う中で、自他の考えを交流させながら、企画原案を工夫改善することができるようになる。

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5分	1　振り返りと本時の目標を確認する。【一斉】 学習課題（めあて） これまでの情報を思考ツールを用いて整理し、企画原案の再検討を行う。	○課題設定の際に作成したウェビングマップに、アクセルタイムでのアドバイスを反映させることで今後の取組のポイントをつかませる。	ポートフォリオ
展開 40 分	2　アクセルタイムでのアドバイスの整理と企画原案の再検討をする。【班別協議】	○ポートフォリオ（ウェビングマップ、ロジックツリー、アクセルタイム報告用紙、企画練り直しシート等）の有効活用を促す。	ポートフォリオ
	(1) アクセルタイムでのアドバイスを整理する際の思考ツールを選択する。	**【視点２】整理・分析するために適切な手法を選択させる。**	複数の思考ツール
	(2) 選択した思考ツールを用いて、整理を行い、企画原案の再検討にどのように取り組むか、また、企画原案そのものについて協議する。	○互いの考えを傾聴し、肯定的に捉えるよう促す。 評価：学び方・考え方（思考ツールの選択・協議） 問題解決能力（情報共有）	
	(3) 班内で協議が停滞した場合は、課内の他の班から情報収集する。	○机間支援は必要最小限に留め、机外観察を行う。	
整理 5分	3　本時の振り返りと次時の内容を確認する。		
	(1) 本時を振り返り、自己評価を行う。	○本時の取組を自己評価することで、次時への意欲につなげる。	
	(2) 企画原案を具体的に再検討することと日程について確認する。	○今後の取組に見通しを持たせる。	